

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 25 週 (6 月 18 日～6 月 24 日)

今週のコメント

～手足口病～手洗いが重要

定点把握感染症

「手足口病 増加つづく」

第 25 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,429 例であり、前週比 9.0%減であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 6.0、2.9、0.8、0.6、0.5 であった。

感染性胃腸炎は前週比 15%減の 1,181 例で、南河内 10.7、泉州 7.9、中河内 7.4、北河内 6.9 である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 3%減の 565 例で、中河内 3.8、大阪市南部・南河内 3.5、泉州 3.4 であった。

咽頭結膜熱は 26%減の 156 例で、中河内 1.6、大阪市南部 1.2、北河内 1.0 である。

水痘は 15%増の 102 例で、豊能 1.1、北河内 0.9、泉州 0.7 であった。

なお、第 6 位の手足口病は 42%増の 95 例で、定点あたり 0.5 で、泉州 2.0、北河内 0.9 である。

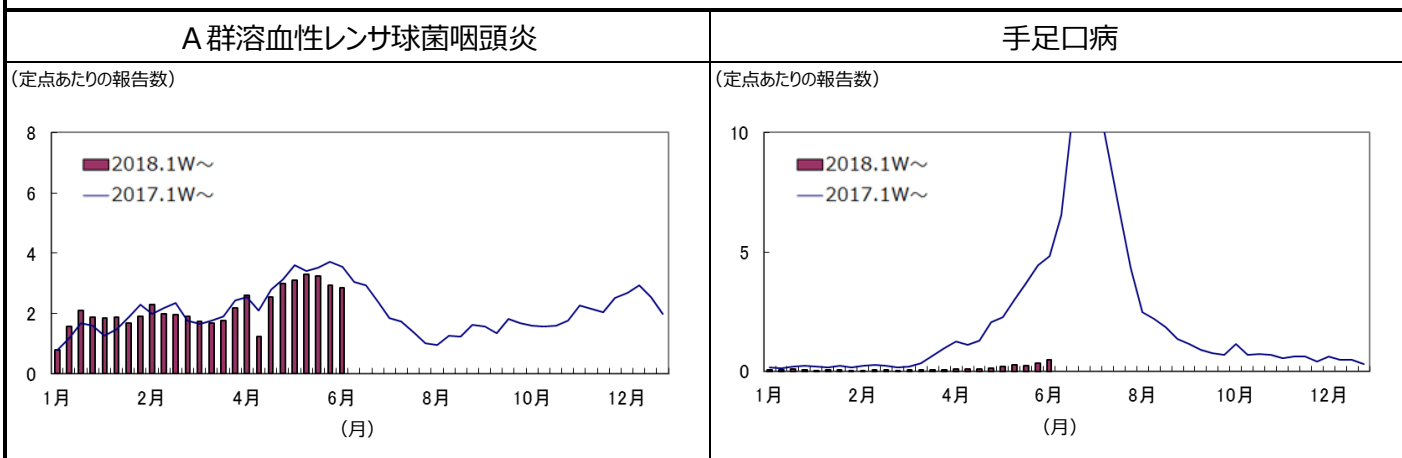


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 25 週 6 月 18 日-6 月 24 日)

第 25 週の順位	第 24 週の順位	感染症	2018 年第 25 週の定点あたり報告数	前週比増減	2017 年第 25 週の定点あたり報告数	2018 年第 25 週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.0	15%減	8.3	1 歳_18%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.9	3%減	3.5	5 歳_14%
3	3	咽頭結膜熱	0.8	26%減	0.9	1 歳_38%
4	4	突発性発しん	0.6	7%減	0.6	1 歳_50%
5	5	水痘	0.5	15%増	0.4	7 歳_24%

第 25 週のコメント

～レジオネラ症～ 毎年、大阪府内で 65-80 例程度、全国では 1600 例程度、報告されている

全数把握感染症

レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症である。土壌や水環境に、普遍的に存在する菌である。人工環境（噴水等の水景施設、ビル屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等）や循環水を利用した風呂から発生したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染する。ヒト-ヒト感染はない。健常者も罹患するが、細胞性免疫機能が低下している、乳幼児、高齢者など、喫煙者、大酒家は重篤化する可能性が高い。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[レジオネラ症とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

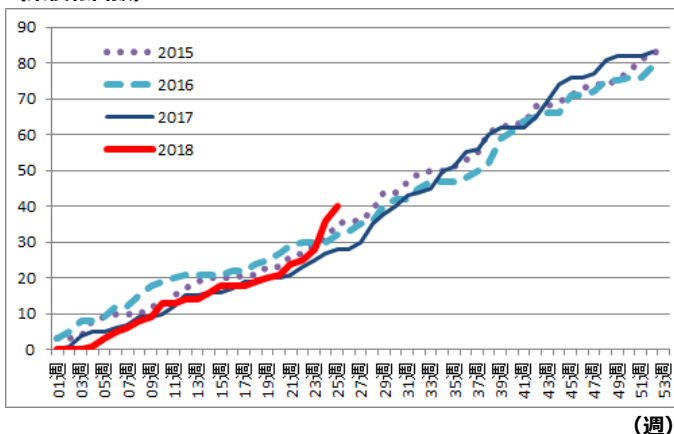


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成 30)年 第 25 週 6 月 18 日 - 6 月 24 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3	1		1				1	85
4 類感染症	A 型肝炎	2							2	22
	レジオネラ症 (肺炎型)	3				1			2	40
	レジオネラ症 (ポンテアック熱型)	1		1						
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1			18
	後天性免疫不全症候群	3						2	1	63
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1		1						2
	梅毒	9							9	554
	百日咳	13	1	2	4		1		5	195
結核 (2018 年 5 月分)	結核 新登録患者数 : 147 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 61 名) (府内累積報告数 723 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 285 名)									
麻しん、風しん	報告はありません									

(2018 年 6 月 26 日 集計分)